

日本歯周病学会認定歯科衛生士のアンケート結果—2007年と2019年を比較して—

日本歯周病学会の認定歯科衛生士制度は、平成17(2005)年に発足しました。認定歯科衛生士を対象として2019年に行ったアンケート調査(対象者1,137名、有効回答者408名、回収率35.9%)の集計結果を報告させていただきます。なお結果の一部に関しては、2007年に行ったアンケート調査(対象者255名、有効回答者127名、回収率49.8%)とも比較検討しております。

1. 2019年調査の認定歯科衛生士の年齢・経験年数は、2007年調査に比べてともに上昇しました(表1, 2)。

2. 勤務形態は、個人開業医に勤務している認定歯科衛生士の割合が増え、常勤の割合が減りました(表3, 4)。

3. 勤務先については、歯科衛生士数が2~5名の歯科診療所が多く、勤務先の40.0%に歯周病専門医が、

41.9%に2名以上の認定歯科衛生士が在籍していました。他学会の認定資格を保有する歯科衛生士が在籍しているのは25.7%であり、日本口腔インプラント学会と日本臨床歯周病学会が多くを占めました(表5)。各種のスタディグループに所属する人の割合は、22.5%でした(表6, 図1, 2)。

4. 認定歯科衛生士申請の志望動機は、両調査時期で変化なく、1位が「歯科衛生士としてのレベルアップを考えた」、2位が「自分の力を試したかった」、3位が「他の歯科衛生士との差別化」、4位が「院長などに言われて」、5位が「取得できると考えたため」でした(表7)。

5. 認定取得後の変化は、2007年が、1位「患者さんを見る目が変わった」、2位「自信がついた」、3位「積極的に色々な研修会等に参加しよう」と意識が変わった」でした(表8)。2019年は、1位「自信がついた」、

表1 回答した認定歯科衛生士の年齢

	2007年	2019年
年齢		
平均年齢	38.2歳	43.7歳
最高年齢	59歳	70歳
最低年齢	26歳	27歳
年齢層	人数	人数
21~30歳	26名	15名
31~40歳	57名	149名
41~50歳	32名	152名
51~60歳	12名	70名
61歳~	0名	20名
	n=127	n=408

表3 勤務先

	2007年	2019年
1 個人開業医	70.9% (90名)	76.2% (311名)
2 歯学部付属病院	15% (19名)	6.6% (27名)
3 公立病院歯科	1.6% (2名)	2.5% (10名)
4 医学部付属病院 歯科	1.6% (2名)	0.5% (2名)
5 個人病院歯科	1.6% (2名)	1.7% (7名)
6 公立歯科診療所	0.0% (0名)	0.5% (2名)
7 健保組合診療所	1.6% (2名)	0.5% (2名)
8 教育機関	1.6% (2名)	4.7% (19名)
9 その他	4.7% (6名)	6.9% (28名)
無回答	1.6% (2名)	0.0% (0名)
	n=127	n=408

表2 歯科衛生士経験年数

	2007年	2019年
経験年数		
平均経験年数	16.5年	21.4年
最長経験年数	38年	52年
最短経験年数	6年	5年
経験年数別人数		
6~10年	37名	38名
11~15年	25名	79名
16~20年	34名	87名
21~25年	14名	88名
26~30年	10名	54名
31~35年	7名	36名
36年~	0名	26名
	n=127	n=408

表4 勤務形態

	2007年	2019年
1 常勤	81.0% (103名)	67.4% (275名)
2 非常勤	8.7% (11名)	26.5% (108名)
3 (歯周治療のみ の)フリーラ ンス	6.3% (8名)	3.4% (14名)
4 その他	2.4% (3名)	2.7% (11名)
無回答	1.6% (2名)	0.0% (0名)
	n=127	n=408

表5 勤務先職員

1 歯科医師数	平均	2007年	2019年
		9.9名/件	16.7名/件
	1名	39件	107件
	2～5名	47件	184件
	6～10名	13件	59件
	11～15名	7件	14件
	16～20名	0件	2件
	21～30名	1件	7件
	31～40名	2件	0件
	41～50名	3件	1件
	51名～	5件	17件
2 歯科衛生士数	平均	6.5名/件	6.8名/件
	1名	8件	26件
	2～5名	66件	208件
	6～10名	27件	97件
	11～15名	9件	26件
	16～20名	1件	6件
	21～30名	0件	17件
	31～40名	5件	1件
	41～50名	1件	0件
	51名～	0件	4件
3 他職種 (上記以外)	平均	10.4名/件	
	1名	51件	
	2～5名	144件	
	6～10名	57件	
	11～15名	6件	
	16～20名	5件	
	21～30名	3件	
	31～40名	10件	
	41～50名	1件	
	51名～	10件	

4 歯周病専門医		2007年	2019年
		いる	43.6%
	1名	29件	107件
	2～5名	7件	39件
	6～10名	6件	16件
	11～15名		1件
	いない	56.4%	60.0%※
5 自身以外の 日本歯周病 学会認定歯 科衛生士			41.9%
	1名	74件	
	2～5名	87件	
	6～10名	10件	
	いない	58.1%※	
6 他の学会専門 医(認定医)		いる	53.0%
	いない	47.0%	54.7%※
7 他学会認定 歯科衛生士		いる	25.7%
	いない		74.6%※

※2019データにおいて、0名を「いない」にカウント

表6 スタディグループ

	2007年	2019年
所属している	45.7% (58名)	22.5% (92名)
所属していない	54.3% (69名)	77.5% (316名)
	n=127	n=408

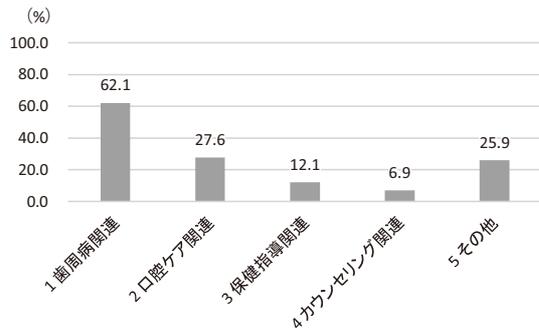


図1 所属しているスタディグループの内訳 (複数回答)

n=58 (2007年)

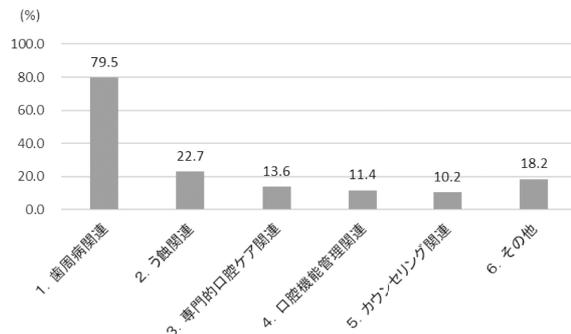


図2 所属しているスタディグループの内訳 (複数回答)

n=92 (2019年)

2位「他の歯科衛生士の見目が変わった」、3位「患者さんの見目が変わった」でした(表9)。

6. 日本歯周病学会の教育講演に希望するテーマは、1位が「SPT時の根面カリエスへの対処」、2位が「有病者への歯周治療」、3位が「歯周治療をベースとした

口腔保健管理」でした(表10-1)。その他の希望する教育講演テーマは、表10-2に示します。

本アンケート調査の結果、日本歯周病学会の認定歯科衛生士の臨床経験年数は平均21.4年でした。日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会としましては、歯周

表7 認定歯科衛生士申請志望動機（複数回答）

	2007年	2019年
1 歯科衛生士としてのレベルアップを考えた	83.5% (106名)	84.3% (344名)
2 自分の力を試したかった	48.0% (61名)	39.2% (160名)
3 他の歯科衛生士との差別化	31.5% (40名)	35.8% (146名)
4 院長などに言われて	29.1% (37名)	27.9% (114名)
5 取得できると考えたため	26.0% (33名)	26.2% (107名)
6 歯科衛生士教育年限の延長を意識して	11.0% (14名)	3.7% (15名)
7 その他	7.9% (10名)	5.6% (23名)
無回答	1.6% (2名)	0.0% (0名)
	n = 127	n = 408

表8 認定後変わったこと（複数回答）2007年

1 患者さんを見る目	48.8% (62名)
2 自信がついた	47.2% (60名)
3 積極的に色々な研修会等に参加しよう と意識が変わった	32.3% (41名)
4 患者さんの見る目	26.8% (34名)
5 積極的に専門誌を見るようになった	25.2% (32名)
6 昇給した	22.8% (29名)
7 院長の見る目	15.7% (20名)
7 他の歯科衛生士の見る目	15.7% (20名)
9 今までと同じ	15.0% (19名)
10 歯周病学会（歯科衛生士セッション） で発表しようと思う	13.4% (17名)
11 その他	5.1% (9名)
	n = 127

表9 認定後変わったこと（複数回答）2019年

1 自信がついた	61.5% (251名)
2 他の歯科衛生士を見る目	36.3% (148名)
3 患者さんの見る目	34.6% (141名)
4 院長の見る目	27.7% (113名)
4 積極的に色々な研修会等に参加 しよう意識が変わった	27.7% (113名)
6 昇給した	26.0% (106名)
7 今までと同じ	21.6% (88名)
8 積極的に専門誌を見るようになった	17.2% (70名)
9 歯周病学会（歯科衛生士セッション） で発表しようと思う	9.8% (40名)
10 その他	3.7% (15名)
11 患者さんを見る目	0.0% (0名)
	n = 408

表10-1 歯科衛生士教育講演に希望するテーマ（複数回答）2019年

1 SPT時の根面カリエスへの対処	240名
2 有病者への歯周治療	215名
3 歯周治療をベースとした口腔保健管理	194名
4 高齢者への歯周治療	174名
5 専門的口腔ケア	147名
6 若年者への歯周治療	143名
7 在宅医療における歯周治療	109名
8 その他	23名

表10-2 歯科衛生士教育講演に希望するテーマ（自由記載）2019年

医科との連携
医科歯科連携
ペリオドンタルメディスン
栄養指導
高齢者関連が多すぎる、もっと歯周治療の深い内容が聞きたい
歯科衛生ケアプロセス
摂食嚥下
歯科疾患と全身疾患の関係
歯周病になる前に、どのような検査、管理、栄養指導や生活指導を行えば歯周病が防げるのか
歯周病にならないための方法を聞きたい
正しい検査、診断について
長期症例（SPTの工夫）
海外における歯周治療の現状
咬合の影響
洗口剤や歯磨剤
認定歯科衛生士の育成について

病治療の最前線で長年にわたって活躍される認定歯科衛生士の皆様に敬意を表しますとともに、今後もできるかぎりのサポートをしたいと考えております。また認定歯科衛生士の皆さんには、地域の歯科衛生士のレベルアップに指導的立場で貢献していただきたいと願っています。学術大会における歯科衛生士教育講演

のテーマにつきましては、希望を積極的に取り入れていく予定です。また何かご要望やご提案等がございましたら、学会事務局にご意見をお寄せいただけましたら幸いです。

歯科衛生士関連委員会